

公表

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果

事業所名 リールズメイト吹田五月が丘

公表日 : 2025年 3月 10日

利用児童数 : 26名

回収数 : 7名

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	5	1	0	1		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	5	1	1	0	子供の様子次第では足りないのかな?と感じる事がある。でもみんなで一生懸命見て下さっているのは良く解る。	支援スタッフの顔ぶれ含め、日頃の様子を保護者専用ブログを活用してお伝えしていく。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	6	1	0	0		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	6	1	0	0		
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	5	2	0	0		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	6	1	0	0		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	6	1	0	0		
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	6	1	0	0		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	6	1	0	0		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	6	1	0	0		
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	1	2	3	1	そういう場面を見た事が無いので、分からない。	支援スタッフの顔ぶれ含め、日頃の様子を保護者専用ブログを活用してお伝えしていく。
保護者 への 説明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	7	0	0	0		
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	7	0	0	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	2	1	4	0	そういう場面を見た事が無いので、分からない。	機会の提供に加え、意義・目的についても丁寧に伝えるよう努める。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	7	0	0	0		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	5	1	1	0		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	7	0	0	0		
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	0	1	5	1	そういう事がされているの分からない。	機会の提供に加え、意義・目的についても丁寧に伝えるよう努める。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	6	0	1	0		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	7	0	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	6	1	0	0		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	6	0	0	1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	3	1	0	3	一度、訓練をしたとスタッフの方から聞いたことがある。	支援スタッフの顔ぶれ含め、日頃の様子を保護者専用ブログを活用してお伝えしていく。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	4	0	0	3		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	5	0	0	2	子供の安全を皆で見守って下さっている。	引き続き、通所を楽しみにできる支援の充実に努める。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	6	0	0	1	発生した事が無い	日々の支援やモニタリングの機会等を活用し、お子様の個性やニーズの相互共有により安全な支援体制確保に努めていく。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	7	0	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	6	1	0	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	7	0	0	0	スタッフ皆で子供の事を見守って下さっている感じがして、親としても安心している。	引き続き、通所を楽しみにできる支援の充実に努める。

公表

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名		リールスメイト吹田五月が丘		公表日		2025年 3月 10日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	1	折り畳み式の長机を使い、活動時のスペース確保に努めている。	基準は満たしているが、活動するにはもう少し広いスペースがあると良い。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	1	職員のシフトをご利用者に応じて調整している。	スタッフの負担が大きい日がある。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	2	5	玄関マットを敷いて玄関と室内の境界を意識してもらうようにしている。	玄関・クールダウンの静養スペースが構造化されていない。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	2	5	折り畳み式の長机を使い、活動時のスペース確保に努めている。	本や遊具を自由に選び遊べる環境が望ましい。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	1	6	トイレがクールダウンの場となる場合がある。	カーテンで仕切られているだけなので、音も遮断できる部屋があると良い。クールダウンの個室の確保ができていない。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	1	朝のミーティング時に行っている。	振り返りが少ない。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	2	伝言板で回覧している。	改善につながっているか不明。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	朝のミーティング時に行っている。	改善につながっているか不明。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	4	行っていないため、なし。	外部評価があっても改善が行われるか不明。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	1	C-Trainingや伝達研修を行っている。	業務に関係のない研修も多い。外部研修は休みをなかなか取れないので受けづらい。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	1	会社のホームページ上で公表されている。	リールスのホームページ上では見られない。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	0			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	4	朝のミーティング時に振り返りを行っている。	適応行動についての掘り下げた確認ができていない。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	3	定期的に放課後等デイサービスガイドラインの読み合わせを行っている。	地域支援ができていない。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	1	大まかな案を作りスタッフ全員に意見を求めている。	あまり意見を出せていない。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	1	季節のイベントを順番で担当を決めて行うようにしている。	ももとの活動にアレンジを加えたものになる場合もある。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	2	その日のご利用者に応じて支援を行っている。	様々なご利用者がいて障がい特性と合わない活動になる場合がある。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	4	振り返りは翌日の朝のミーティング時に行っている。	振り返りは翌日になっている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	1	朝のミーティング時に行っている。	支援の検証・改善につながっているか不明。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6	1	個別支援計画で複数組み合わせた計画を立てている。	組み合わせた支援が常に行えているか自信がない。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	0			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	1	児童発達支援管理責任者が出席しており、会議での状況を全スタッフに伝えている。	会議についてよくわかっていないスタッフがいる。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	1	6	相談支援員からの要請があれば連携した支援を行っている。	医療の連携はほぼない。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	0		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2	5	就学前から利用されていたご利用者に関しては情報共有等行う場合がある。	就学後からのご利用の場合はほぼ行っていない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	1	同じグループの事業所の場合は行っている。	他の事業所には行っていない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	6	発達支援センターからデイの様子を見に来ていただいている。	助言や研修は受けていない。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	6	公園で会った際に挨拶をしている。	交流や活動までは行っていない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	4	管理者のみ参加している。	管理者のみの参加となっている。
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0			
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	6	モニタリング等で相談に乗っている。	相談に乗る以上のことは行っていない。	
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0			
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0			
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	0			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	0	7	父母の会の活動を行っていないため、なし。	行えていない。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	0		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	6	地域のイベントに協力を求められた際は協力している。	積極的な地域との関りを持っていない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	1	訓練についてブログで発信している。	ご家族へのマニュアルについての周知ができていない。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0		
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	1	食物アレルギーのあるご利用者がいないため、なし。	食物アレルギーのあるご利用者がいないため、なし。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	1	安全計画を作成し職員がいつでも閲覧可能にしている。	安全管理について十分とはどこまでか。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	4	避難訓練の様子をブログにて発信している。	避難訓練の実施報告程度である。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3	4	ヒヤリハットをあげるよう声掛けを行っている。	ヒヤリハットをあまりあげていないので検討している所がない。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0		
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	1	身体拘束研修で何をするか把握は行っている。	身体拘束の対象者がいないので行えていない。	

公表

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	リールスメイト吹田五月が丘		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 1日 ～ 2025年 1月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	2024年 12月 1日 ～ 2025年 1月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 1日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っている。	モニタリング前に全ての職員から半年間の様子や気づきの情報を集め、ご利用者とのミニ会議で本人の意思を確認した上でモニタリングを行っている。	モニタリングの内容を児童発達支援管理責任者から職員に伝達し、それを踏まえた上でどういった支援が必要かの会議を行い、放課後等デイサービス計画を作成している。
2	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援をおこなっている。	おやつはセレクトとし、飲み物の選択でおやつの数も変動するなど幅広い選択肢を与えている。	駄菓子屋さんレクでは金額での選択肢を与えて実際の買い物の練習も兼ねている。買い物レクでは実際の店舗でのおやつも買物も行っている。
3	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に発信している。	1か月の活動予定表を発行して利用日にどういった活動を行うかを知ってもらい、利用前と利用後のご家庭内での話題にしている。	ご家族様向けのブログで活動の様子をたくさん写真付きで発信し、お子様の表情などからも楽しい雰囲気を感じていただけるようにしている。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がない。	会話の可能なご利用者が少ない。	公園などに来ている他の放課後等デイサービスの方と挨拶などから交流を増やしていく。
2	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしていない。	父母の会はなく、保護者会等の保護者同士の交流の機会を作ることができない。	ご利用者と時間をかけて発表できるような活動を継続的にを行い、発表会という場を作り保護者に集まっていただけるようにする。
3	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っていない。	ご利用者に適した行事が、地域の方を呼べるようなものではないこと。見知らぬ方がいる状況がご利用者の精神的負担になること。	グループの他デイと合同イベントなどを行い、見知らぬ方との交流に慣れていく。

公表

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果

事業所名 リールスメイト吹田五月が丘

公表日 : 2025年 3月 10日

利用児童数 : 0名

回収数 : 0名

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	-	-	-	-	-	-
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	-	-	-	-	-	-
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	-	-	-	-	-	-
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	-	-	-	-	-	-
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	-	-	-	-	-	-
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	-	-	-	-	-	-
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	-	-	-	-	-	-
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	-	-	-	-	-	-
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	-	-	-	-	-	-
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	-	-	-	-	-	-
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	-	-	-	-	-	-
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	-	-	-	-	-	-
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	-	-	-	-	-	-
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	-	-	-	-	-	-
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	-	-	-	-	-	-
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	-	-	-	-	-	-
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	-	-	-	-	-	-
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	-	-	-	-	-	-
19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	-	-	-	-	-	-	

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	-	-	-	-	-	-
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	-	-	-	-	-	-
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	-	-	-	-	-	-
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	-	-	-	-	-	-
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	-	-	-	-	-	-
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	-	-	-	-	-	-
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	-	-	-	-	-	-
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	-	-	-	-	-	-
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	-	-	-	-	-	-
	29	事業所の支援に満足していますか。	-	-	-	-	-	-

公表

## 児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名		リールスメイト吹田五月が丘				公表日	2025年3月10日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	1	折り畳み式の長机を使い、活動時のスペース確保に努めている。	基準は満たしているが、活動するにはもう少し広いスペースがあると良い。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	1	職員のシフトをご利用者に応じて調整している。	スタッフの負担が大きい日がある。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	2	5	玄関マットを敷いて玄関と室内の境界を意識してもらうようにしている。	玄関・クールダウンの静養スペースが構造化されていない。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	2	5	折り畳み式の長机を使い、活動時のスペース確保に努めている。	本や玩具を自由に選び遊べる環境が望ましい。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	1	6	トイレがクールダウンの場となる場合がある。	カーテンで仕切られているだけなので、音も遮断できる部屋があると良い。クールダウンの個室の確保ができていない。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	2	朝のミーティング時に行っている。	振り返りが少ない。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	伝言板で回覧している。	改善につながっているか不明。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	3	行っていないため、なし。	外部評価があっても改善が行われるか不明。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	1	C-Trainingや伝達研修を行っている。	業務に関係のない研修も多い。外部研修は休みをなかなか取れないので受けづらい。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	1	会社のホームページ上で公表されている。	リールスのホームページ上では見られない。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7	0			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	3	朝のミーティング時に振り返りを行っている。	適応行動についての掘り下げた確認ができていない。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	3	定期的な放課後等デイサービスガイドラインの読み合わせを行っている。	地域支援ができていない。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	1	大まかな案を作りスタッフ全員に意見を求めている。	あまり意見を出せていない。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	1	季節のイベントを順番で担当を決めて行うようにしている。	もともとの活動にアレンジを加えたものになる場合もある。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5	2	その日のご利用者に応じて支援を行っている。	様々なご利用者がいて障がい特性と合わない活動になる場合がある。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	4	振り返りは翌日の朝のミーティング時に行っている。	振り返りは翌日になっている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	1	朝のミーティング時に行っている。	支援の検証・改善につながっているか不明。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	1	児童発達支援管理責任者が出席しており、会議での状況を全スタッフに伝えている。	会議についてよくわかっていないスタッフがいる。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	3	相談支援員からの要請があれば連携した支援を行っている。	医療の連携はほぼない。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	4	必要に応じて情報共有を行う場合がある。	情報共有を行う状況になっていない。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2	5	必要に応じて情報共有を行う場合がある。	情報共有を行う状況になっていない。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	4	発達支援センターからデイの様子を見に来ていただいている。	助言や研修は受けていない。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	6	公園で会った際に挨拶をしている。	交流や活動までは行ってない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0		
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	6	モニタリング等で相談に乗っている。	相談に乗る以上のことは行っていない。
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0			
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0			

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0		
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	0	7	父母の会の活動を行っていないため、なし。	行えていない。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	0		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	6	地域のイベントに協力を求められた際は協力している。	積極的な地域との関わりを持っていない。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0		
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0		
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	2	食物アレルギーのあるご利用者がいないため、なし。	食物アレルギーのあるご利用者がいないため、なし。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	1	安全計画を作成し職員がいつでも閲覧可能にしている。	安全管理について十分とはどこまでか。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	4	避難訓練の様子をブログにて発信している。	避難訓練の実施報告程度である。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	3	ヒヤリハットをあげるよう声掛けを行っている。	ヒヤリハットをあまりあげていないので検討している所がない。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	1	身体拘束研修で何をするか把握は行っている。	身体拘束の対象者がいないので行えていない。	

公表

## 児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	リールスメイト吹田五月が丘		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 1日		～ 2025年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数) 0
○従業者評価実施期間	2024年 12月 1日		～ 2025年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 1日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援を行っている。	ミーティングで児童発達支援管理責任者が児童発達支援計画についてわかりやすく伝達している。	実施記録に目標項目についてわかりやすく記載して支援を行いやすくしている。さらに支援計画を実施記録と一緒に挟んでおり細かい内容もすぐに確認できるようにしている。
2	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っている。	児童発達支援から放課後等デイサービスまで様々なタイプのご利用者を経験してきたことから、悩み等に対してこれまでの経験からこういった対応で解決できたいような現実的な回答をすることができる。	ご利用者の特性を見てこういった困りごとがないかなど、相談が来る前にこちらから質問をすることで安心して相談できる関係を作っていく。
3	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に発信している。	1か月の活動予定表を発行して利用日にどういった活動を行うかを知ってもらい、利用前と利用後のご家庭内での話題にしている。	ご家族様向けのブログで活動の様子をたくさん写真付きで発信し、お子様の表情などからも楽しい雰囲気を感じていただけるようにしている。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会がない。	公園などに行く際も、年上のご利用者と一緒に行動することが多い。	公園などに来ている他の児童発達支援や放課後等デイサービスの方と挨拶などから交流を増やしていく。
2	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしていない。	父母の会はなく、保護者会等の保護者同士の交流の機会を作ることができない。	ご利用者と時間をかけて発表できるような活動を継続的にを行い、発表会という場を作り保護者に集まっていただけるようにする。
3	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っていない。	ご利用者に適した行事が、地域の方を呼べるようなものではないこと。見知らぬ方がいる状況がご利用者の精神的負担になること。	グループの他デイと合同イベントなどを行い、見知らぬ方との交流に慣れていく。

事業所名

リールスメイト吹田五月が丘

支援プログラム（放課後等デイサービス）

作成日

2024 年

9 月

1 日

法人（事業所）理念		子どもの人権や主体性を尊重し、子どもの最善の利益を図るため、保護者や地域社会と力を合わせて子どもを主体とした福祉の推進に積極的に取り組みます。								
支援方針		多様な活動・体験機会の提供を通じて、現在抱える子どもの困り事や生き辛さを改善し、子ども達が自分らしく生き抜く力を育み支える。								
営業時間		平日 土・祝・長期休暇	13 (10)	時 0 (30)	分から 19 (16)	時 0 (30)	分まで	送迎実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> なし
支 援 内 容										
本人支援	健康・生活	事業所スタッフにより来所時の健康チェック、来所時や飲食前、トイレ使用後等の手洗い等を通じ、健康を保持しつつ活発な活動参加ができるよう支援。 ご利用児童の特性に合わせ、構造化を意識した部屋のレイアウト・掲示・支援により、安心・安定して通所・活動できるよう支援。 保護者との密接な連絡調整と連携により、定期的なご利用を促進し、児童本人の生活リズムの形成・安定を図る。								
	運動・感覚	ストレッチ・体操・サーキット活動等の提供により、姿勢および運動や動作の基本的技能を維持・向上を促進。 音楽に合わせて身体を動かす活動等の提供により、児童が保有する聴覚・視覚・触覚など感覚を刺激し、十分に活用することを促進。 (児童ひとりひとりの身体の状態に合わせ必要な場合)活動時間中に適切な姿勢保持装置や車いすを活用することで、姿勢の保持や移手段の確保を図る。								
	認知・行動	支援スタッフが児童ひとりひとりの認知の特性を理解・把握するよう努め、それらを踏まえて児童が自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう支援。 粘土細工などの創作活動の提供により、児童が視覚・触覚・嗅覚などを通じて物の形や色・重さに変化していくことを体感し、認知機能の発達を促進。 外出（散歩）活動の提供により、児童が季節の移り変わりによる様々な変化を自ら体感することで、過去の情報と照合しつつ環境の状況や変化を把握・理解できるよう支援。								
	言語 コミュニケーション	はじまり（終わり）の会等の機会を通じ、コミュニケーション（言語・非言語のやり取り）により、相手の意図を理解することや自分の考えを伝えられるよう支援。 活動中の意図的な声掛け等により、ご利用児童ひとりひとりの発達状況や興味・関心に合わせ、言語・表情や身振りなどを用いて意思を伝えることを促進できるよう支援。 散歩活動中等の声掛けにより、個々に合わせた環境設定により相手と同じものに注意を向け、徐々にその行動や意図を理解していくことを促進。								
	人間関係 社会性	活動中や活動前後の事業所の支援スタッフとの密なやり取りにより、多様な他者との関わりの機会および環境を提供することで人間関係形成の促進。 感覚機能や運動機能を刺激する集団活動（例：ダンス活動等）の提供により、他の児童と活動に参加することの楽しみを感じることで、社会性を促進。 ご利用児童ひとりひとりの関心や理解度に合わせつつ、ルールのあるゲーム活動の提供により、集団に参加する楽しみや手順を徐々に理解できるよう支援。								
家族支援		ご利用児童を支える保護者・家族のレスパイト、就労確保の預りニーズに対応し、必要に応じて延長支援を実施。児童の発達状況を相互に理解し合えるよう定期的に情報交換を実施。				移行支援		学童保育を併用している場合の連絡調整を行い、必要に応じて移行支援。希望の進路先を見据えた本人・保護者等との相談援助を実施。		
地域支援・地域連携		ご利用児童がスムーズな生活を送れるよう、通学先の学校の先生、併用している他の支援事業所担当者との連絡調整や連携の実施。				職員の質の向上		年間研修計画に基づき、計画的かつ定期的に全職員および職層別の研修を実施する。		
主な行事等		夏祭り（8月）、クリスマス会（12月）、初詣（1月）、外出活動、駄菓子屋さんレク、お買い物レク、おやつ作り（毎月）								

事業所名

リールスメイト吹田五月が丘

## 支援プログラム（児童発達支援）

作成日

2024 年

9 月

1 日

法人（事業所）理念		子どもの人権や主体性を尊重し、子どもの最善の利益を図るため、保護者や地域社会と力を合わせて子どもを主体とした福祉の推進に積極的に取り組みます。								
支援方針		成長著しい乳幼児期のお子様ひとりひとりの発達の充実が図られるよう、保護者や地域の支援機関との連携を重視しながら、個々のニーズに合わせ工夫を凝らした多様な活動・体験機会を提供することを通じ、就学に備えられるよう支援する。								
営業時間		平日 土・祝・長期休暇	13 (10)	時 0 (30)	分から 19 (16)	時 0 (30)	分まで	送迎実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> なし
支 援 内 容										
本人支援	健康・生活	事業所スタッフにより来所時の健康チェック、来所時や飲食前、トイレ使用後等の手洗い等を通じ、健康を保持しつつ活発な活動参加ができるよう支援。 お子様ひとりひとりの特性に合わせ、構造化を意識した部屋のレイアウト・掲示・支援により、安心・安定して通所・活動できるよう支援。 保護者との密接な連絡調整と連携により、定期的なご利用を促進し、お子様本人の生活リズムの形成・安定を図る。								
	運動・感覚	ストレッチ・体操・サーキット活動等の提供により、姿勢および運動や動作の基本的技能を維持・向上を促進。 音楽に合わせて身体を動かす活動等の提供により、お子様が保有する聴覚・視覚・触覚など感覚を刺激し、十分に活用することを促進。 (お子様ひとりひとりの身体の状態に合わせ必要な場合)活動時間中に適切な姿勢保持装置や車いすを活用することで、姿勢の保持や移動手段の確保を図る。								
	認知・行動	支援スタッフがお子様ひとりひとりの認知の特性を理解・把握するよう努め、それらを踏まえてお子様が自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう支援。 粘土細工などの創作活動の提供により、お子様が視覚・触覚・嗅覚などを通じて物の形や色・重さが変化していくことを体感し、認知機能の発達を促進。 外出（散歩）活動の提供により、お子様が季節の移り変わりによる様々な変化を自ら体感することで、環境の状況や変化を徐々に把握・理解できるよう支援。								
	言語 コミュニケーション	はじまり（終わり）の会等の機会を通じ、コミュニケーション（言語・非言語のやり取り）により、相手の意図を理解することや自分の考えを徐々に伝えられるよう支援。 活動中の意図的な声掛け等により、お子様ひとりひとりの発達状況や興味・関心に合わせ、言語・表情や身振りなどをを用いて意思を伝えることを促進できるよう支援。 散歩活動中等の声掛けにより、個々に合わせた環境設定により相手と同じものに注意を向け、徐々にその行動や意図を理解していくことを促進。								
	人間関係 社会性	活動中や活動前後の事業所の支援スタッフとの密なやり取りにより、多様な他者との関わりの機会および環境を提供することで人間関係形成の促進。 感覚機能や運動機能を刺激する集団活動（例：ダンス活動等）の提供により、他のお子様と活動に参加することの楽しみを感じることで、社会性を促進。 お子様ひとりひとりの関心や理解度に合わせつつ、ルールのあるゲーム活動の提供により、集団に参加する楽しみや手順を徐々に理解できるよう支援。								
家族支援		お子様の発達状況を相互に理解し合えるよう、こまめな気づきの共有と情報交換を実施。お子様を支える保護者・家族のレスパイト、就労確保の預りニーズに対応し、必要に応じて延長支援を実施。				移行支援		保育所等併用している場合の連絡調整を行い、必要に応じて移行支援。希望の進路(就学)先を見据えた保護者等との相談援助を実施。		
地域支援・地域連携		お子様がスムーズな生活を送れるよう、保育所・幼稚園等の先生、併用している他の支援事業所担当者との連絡調整や連携の実施。				職員の質の向上		年間研修計画に基づき、計画的かつ定期的に全職員および職層別の研修を実施する。		
主な行事等		夏祭り（8月）、クリスマス会（12月）、初詣（1月）、外出活動、駄菓子屋さんレク、お買い物レク、おやつ作り（毎月）								